



ベガルタ仙台レディース 後援会通信

2017年 10月7日発行

vol.5

編集・発行/
ベガルタ仙台レディース後援会

(通算 vol.27)

2017シーズン ありがとうございました

今シーズン、チームは越後和男監督の下、「マイナビベガルタ仙台レディース」として新たな挑戦の1年となりました。

ベガルタ仙台レディース後援会ではこの1年、ホームゲームの際のさまざまな活動をはじめ、仙台白百合女子大学のご協力の下、氏家ゼミの学生による栄養バランス抜群で季節感あふれる「白百合まごころ弁当」を継続してお届けするなど、チームを多方面からサポートしてまいりました。未来の女子サッカーを支える中学生世代の選手を応援する活動として、マイナビベガルタ仙台レディースのジュニアユースとその保護者を対象としたスポーツ栄養講習会も、新たに開催しました。

後援会会員の皆さまから多くのご協力をいただき

ましたこと、改めて感謝申し上げます。そして、スタジアムに足を運び、声援をお送りくださったサポーターの皆さま、ありがとうございました。チーム発足時から女子サッカーに魅了された一人として、応援する仲間が着実に増えていることを大変嬉しく、そして心強く思います。

リーグ戦は本日で終了しますが、この後に続く皇后杯、そして来シーズンと、チーム、選手が存分に力を発揮できるよう引き続きサポートしてまいります。今後とも、ベガルタ仙台レディース後援会の活動にご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

ベガルタ仙台レディース後援会副会長 佐藤 幸恵



- ① 後援会員の新規入会・更新受け付け=4月2日の新潟戦・ユアスタ
- ② ジュニアユース向けのスポーツ栄養講習会=4月22日・仙台白百合女子大学
- ③ ベガルタかぶと作りのお手伝い=5月3日の日テレ戦・ユアスタ
- ④ 仙台セタに飾る短冊集め=7月22日の浦和戦・ユアスタ
- ⑤ 今シーズン5回目の「白百合まごころ弁当」=9月12日



レディース後援会のホームページ <http://vegalta-ladies.com/>



DF きた はら 北原 か な 佳奈 選手(28歳)

●子どもや高齢者と一緒に●

さまざまな職業のプロから話を聞くことで将来について考える機会を小中学生に提供しようと、仙台市教委が夏休みに開いた「楽学プロジェクト」で、嘉数飛鳥選手とともに講師を務めた。「女子サッカー選手の仕事」をテーマに、小学生の女の子たちに自らの体験を披露。その後はみんなでボールを蹴って楽しいひとときを過ごした。

(株)ベガルタ仙台のスタッフとしての活動はほかにも、クラブが宮城県内の小中学校で開く「復興支援サッカーキャラバン」や、高齢者を対象とした「健康体操教室」など幅広く、競技を通じて体を動かす楽しさを広めるとともに、地域貢献に果たしている役割は大きい。「サッカーをよく知らなかったという人も、一緒に運動した後は『楽しかった』とか『これから応援するね』と言ってくれるので嬉しいし、その姿を見るとこちらが元気をもらえます」

こうした活動のない時の過ごし方は、早めにクラブハウスに来て筋トレに励んだり家でゆっくりしたりといろいろ。コーチから特に指示があるわけではなく、全て自分で考え、組み立てなければならないが、大変だと思ったことはない。「みんなが仕事をしている時に私は自分の時間をもらっている。本当にありがたいと思います」と、サッカーに集中できる環境を与えられていることに感謝する。

●自炊の味方クックパッド●

温暖な静岡県の藤枝市出身。「海もあるし山も。そう、富士山もあります。いい所ですよ。人もいいし」。そんな古里を大学進学で離れて以来続ける一人暮らしで、最も気を使うのはやはり食事。「基本的には3食とも自炊です」と言う。ならば得意なメニューも多いのでは?と水を向けると、「クックパッドを見て作ります」といたずらっぽく笑う。仙台に来て2年目だが「おいしいお店とかは、まだ分かりま

選手の皆さんのサッカーに懸ける思いやプライベートな素顔の一端を紹介するこのシリーズも、いよいよ今季最終回。きょうは不動のセンターバックとしてディフェンスラインを統率する北原佳奈選手(背番号26)の登場です。

せん。教えてほしいです」とも。

オフの日は、近くの日帰り温泉に行ったり、車を運転してちょっと遠方に住む友達の所へ遊びに行ったりと「結構アクティブ」だ。「自分がやりたいことをしたい」ので、一人で過ごすことが多い。まとまった休みがあったら「今まで関わってきた人で、遠くでなかなか会えない人に会いに行きたいです」。

●若い選手サポートしたい●

センターバックとしてのプレーの”売り”は、173cmの高さを生かしたヘディングとロングフィード。半面、課題は「たくさんあり過ぎて…。得意な部分の精度をもっと高めたいし、攻撃にももっと絡めるように」と、謙虚に自分を見詰める。

チームに6人いる1988年度生まれの一人。日本人選手で最上級生となったことを「私たち年上の者が今以上に頑張らなきゃいけないし、若い子たちが

思い切っていいプレーを出せるようサポートしなきゃって、最近すごく感じます」と自覚している。

なでしこジャパンのメンバーとして一昨年のカナダ女子W杯に出場するなど、国際舞台の経験も豊富。選手



としての目標を「代表に(また)入りたいという気持ちは持ち続けています」とした上で「サッカーは出来る限り続けたい。そして、サッカーを通して人間としてもっともっと成長したい。ずっとそう思っています」と結んだ。

文 : K. Tsuge

イラスト : K. Honma

(9月12日 取材)

サッカーを通して人間として成長したい